

リーディングDXスクール事業 【実践事例】

吉川市立東中学校（埼玉県）

【取組内容⑤】市教育委員会と連動した、実践内容の地域内外への発信・普及

ねらい

自分たちの学びの成果を見守る児童生徒、教職員が積極的に発信する機会、技能をICT活用で得ることをめざす。そこには、自分たちの学びを自信をもって披露する自己肯定感や有用感を高めること、積極的発信が学校外と新たな繋がりを生み、学校の協力、支援者ともなり、より学びを深めることに気づけることも含まれる。

学校外の
人・もの・コトと
積極的に
繋がること
ができる

多様性を
理解した
関係づくり
ができる

情報を
適切に
活用・編集・
発信できる

本取組を通して吉川市が子供たちにつけたい力



自分を肯定し
主体的に
行動できる

自分や他者の
心と体を
大切にできる

成果

学校はICT活用した学びの成果を協力者、地域等へ発信し始めている。その反応、成果から発信することの意義やさらなる技術等の向上を目指す意欲が見て取れる。教育委員会もX、YouTubeチャンネルなど多様なインターネット配信を駆使し、リーディングDXの実践成果や日々の学校実践の発信に努めている。こうした発信が市の教育行政への理解と協力につながる手ごたえを感じ始めている。

課題

本市が力を入れているデジタル・シティズンシップ教育はこうした発信の機会にその成果を発揮するものである。発信機会にこうした学びを成果と連携させること、さらにPBL探究的な学びにおいても同じようなテーマ、実践を進めている他市、他地域と積極的にオンライン情報交流の機会の創出など新たな取組を進めたい。また、市独自採用のICT支援員構築のポータルサイトのコンテンツを30に増量していく。